

研究分野のキーワード：ブラジルの教育，識字教育運動，在日外国人の教育

研究紹介

私は、初習外国語のひとつであるポルトガル語の授業を主に担当しています。ポルトガル語はブラジルの公用語で、私もブラジルに留学してポルトガル語を覚えました。

ブラジルは、よく「遠くて近い国」と表現されることがあります。地理的には大変遠く、日本からブラジルまでは、飛行機で30時間以上かかります。しかし、ブラジルと日本の関係性は強く、その意味では「日本に近い国」といえるでしょう。人の交流の縁は特に深く、日本からの移民船笠戸丸がブラジルのサントス港に到着した1908年から日本人のブラジル移民の歴史は始まりました。第二次世界大戦中に途切れた時期もありましたが、船による移民は1973年まで続きました。そして1990年代以降は反対に多くの日系ブラジル人が来日して働くようになっていきます。

また、日本との関係を除いても、ブラジルは非常に興味深い国です。ヨーロッパともアメリカ合衆国とも異なる文化や価値観、そして現実があり、私たちは、そこから多くのことを学ぶことができるのです。

それでは、現在取り組んでいる研究を紹介します。大きく分けて2つあります。

ひとつは、日本に住む外国人（特にブラジル人）の子どもたちの教育についてです。これまで、公立中学校に通う外国人生徒や、ブラジル人学校に通う子どもたち、どこの学校にも通っていない（在籍していない）不就学の子どもたちなど、さまざまな教育環境にいるブラジル人の子どもたちの調査をしてきました。それぞれ問題はまだまだ多く残されていますが、最近では、教育環境（教育経験）と能力形成の関心に大きな関心を持っており、就学前教育（小学校に入学する前の教育）に注目しています。

もうひとつの研究関心は、ブラジルにおける移民教育と成人識字教育にあります。ブラジルは、アメリカや日本に労働者として多くの人々を送り出していますが、その反対にさまざまな国々からの移民を受け入れています。ブラジルは、1500年にポルトガル人カブラルによって「発見」されて以来、移民によって作られてきた国です。南米最大の都市サンパウロは、ポルトガル人はもちろんのこと、イタリア系、日系、アラブ系などさまざまな国からきた移民たちが独自の文化を発展させてきました。最近では、ボリビアなどの南米諸国はもちろんのこと、中国や韓国といったアジア諸国からの移民も増えているのが特徴です。ブラジル社会は言葉も文化も異なる移民たちをどのように受け入れているのか、そしてそこで教育はどのように機能しているのか、などの観点から研究を進めています。